

A 経験すべき診察法・検査・手技 検討用シート(案)

参考資料5

	研究班による試案		
	単独で実施できる	指導医の下で実施できる	適応を判断し、結果を解釈できる
<b>(1) 医療面接</b>			
1) 医療面接におけるコミュニケーションの持つ意義を理解し、コミュニケーションスキルを身に付け、患者の解釈モデル、受診動機、受療行動を把握できる。	○		
2) 患者の病歴(主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活・職業歴、系統的レビュー)の聴取と記録ができる。	○		
3) 患者・家族への適切な指示、指導ができる。	○		
<b>(2) 基本的な身体診察法</b>			
1) 全身の観察(バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む。)ができ、記載できる。	○		
2) 頭頸部の診察(眼瞼・結膜、眼底、外耳道、鼻腔口腔、咽頭の観察、甲状腺の触診を含む。)ができ、記載できる。	○		
3) 胸部の診察(乳房の診察を含む。)ができ、記載できる。	○乳房以外	○乳房	
4) 腹部の診察(直腸診を含む。)ができ、記載できる。	○		
5) 泌尿・生殖器の診察(産婦人科的診察を含む。)ができ、記載できる。		○	
6) 骨・関節・筋肉系の診察ができ、記載できる。	○		
7) 神経学的診察ができ、記載できる。	○		
8) 小児の診察(生理的所見と病的所見の鑑別を含む。)ができ、記載できる。	○		
9) 精神面の診察ができ、記載できる。	○		
<b>(3) 基本的な臨床検査</b>			
1) 一般尿検査(尿沈渣顕微鏡検査を含む。)			○
2) 便検査(潜血、虫卵)			○
3) 血算・白血球分画			○
A 4) 血液型判定・交差適合試験	○		
A 5) 心電図(12誘導)、負荷心電図	○		
A 6) 動脈血ガス分析	○		
7) 血液生化学的検査・簡易検査(血糖、電解質、尿素窒素など)			○
8) 血液免疫血清学的検査(免疫細胞検査、アレルギー検査を含む。)			○
9) 細菌学的検査・薬剤感受性検査・検体の採取(痰、尿、血液など)	○		
9) 細菌学的検査・薬剤感受性検査・簡単な細菌学的検査(グラム染色など)	○		
10) 呼吸機能検査・スパイロメトリー			○
11) 髄液検査			○
12) 細胞診・病理組織検査			○
13) 内視鏡検査			○
A 14) 超音波検査		○	
15) 単純X線検査			○
16) 造影X線検査			○
17) X線CT検査			○
18) MRI検査			○
19) 核医学検査			○
20) 神経生理学的検査(脳波・筋電図など)			○
<b>(4) 基本的手技</b>			
1) 気道確保を実施できる。	○		
2) 人工呼吸を実施できる。(バッグ・バルブ・マスクによる徒手換気を含む。)	○		
3) 胸骨圧迫を実施できる。	○		
4) 圧迫止血法を実施できる。	○		
5) 包帯法を実施できる。	○		
6) 注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保)を実施できる。	○中心静脈以外	○中心静脈	
7) 採血法(静脈血、動脈血)を実施できる。	○		
8) 穿刺法(腰椎)を実施できる。		○	
9) 穿刺法(胸腔、腹腔)を実施できる。		○	
10) 導尿法を実施できる。	○		
11) ドレーン・チューブ類の管理ができる。	○		
12) 胃管の挿入と管理ができる。	○		
13) 局所麻酔法を実施できる。	○		
14) 創部消毒とガーゼ交換を実施できる。	○		
15) 簡単な切開・排膿を実施できる。	○		
16) 皮膚縫合法を実施できる。	○		
17) 軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる。	○		
18) 気管挿管を実施できる。		○	
19) 除細動を実施できる。		○	
<b>(5) 基本的治療法</b>			
1) 療養指導(安静度、体位、食事、入浴、排泄、環境整備を含む。)ができる。	○		
2) 薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療(抗菌薬、副腎皮質ステロイド薬、解熱薬、麻薬、血液製剤を含む。)ができる。	○		
3) 基本的な輸液ができる。	○		
4) 輸血(成分輸血を含む。)による効果と副作用について理解し、輸血が実施できる。	○		
<b>(6) 医療記録</b>			
1) 診療録(退院時サマリーを含む。)をPOS(Problem Oriented System)に従って記載し管理できる。	○		
2) 処方箋、指示箋を作成し、管理できる。	○		
3) 診断書、死亡診断書、死体検案書その他の証明書を作成し、管理できる。	○		
4) CPC(臨床病理検討会)レポートを作成し、症例呈示できる。	○		
5) 紹介状と、紹介状への返信を作成でき、それを管理できる。	○		
<b>(7) 診療計画</b>			
1) 診療計画(診断、治療、患者・家族への説明を含む。)を作成できる。	○		
2) 診療ガイドラインやクリティカルパスを理解し活用できる。	○		
3) 入退院の適応を判断できる(デイスアジャリー症例を含む。)	○		
4) QOL(Quality of Life)を考慮にいたった総合的な管理計画(リハビリテーション、社会復帰、在宅医療、介護を含む。)へ参画する。	○		